

飛び出せ 学校

この新聞は、佐伯市木立小学校の6年生(神田定章教諭=9人)が、大分合同新聞社の記者と一緒に作りました。

大分高小学生新聞

発行者
佐伯市
木立小学校
6年生



「木立今昔ものがたり」へようこそ！私たちが住んでいる木立地区は、佐伯市の中でも田畑が多いのが特徴です。毎年、全校児童が地域の方々に「指導をいただきながら、「田植え」と「稲刈り」を行っています。かまの扱いは、低学年の頃は難しく感じましたが、高学年になると手慣れたものです。台風の影響が心配されましたが、幸いにも昨年も豊作でした。



私たちが「田植え」「稲刈り」をしてできたお米は、毎年、九州のお米ランキングで上位にランクインされます。一昨年は、なんと「ナンバー1(ワン)」になりました。

今と昔の校舎比べてみた

私たちの母校である木立小学校の昔について、木立小OB(現佐伯市副市長)の武田晴美さん(64)にうかがいました。昔の木立小は1階建てで木造校舎だったそうです。その10年後に鉄筋コンクリート造りの校舎になりました。当時は、1クラス40人、全校で300人近くいたそうです。



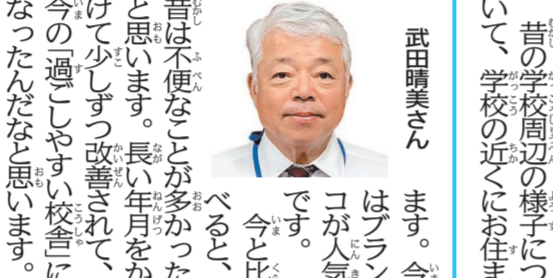
私たちは、武田晴美さんから「昔ほどにでもいた『ある生き物』がこの木立から消えようとしている」というお話を聞きました。ヒントは、「貝の仲間」ということでしたが、実名までは教えてくれないままにしました。私たちに、自分たちの力で調べさせようと思われたので、その後、インターネットで探してみました。



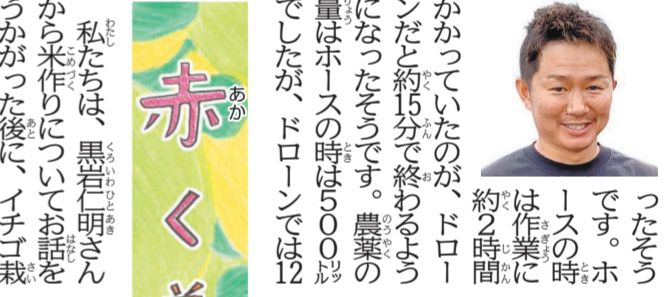
昔から今に変わった米作りの仕方について、黒岩仁明さん(33)に取材しました。黒岩さんによると、昔は5反の田んぼにホースを引いて水や肥料を2人でまいていましたが、2、3年ほど前からドローンです。



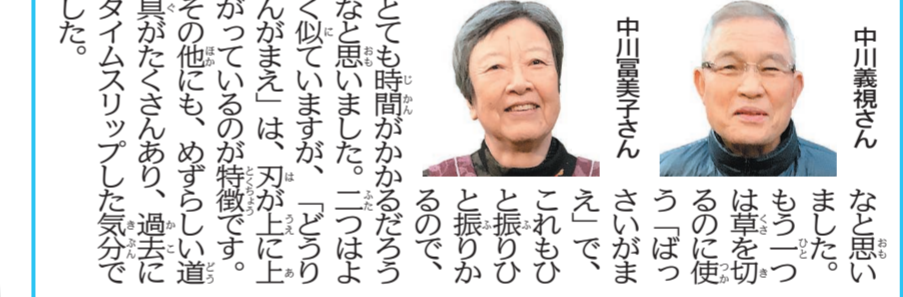
「くりがまえ」(左とはついでがま)のかま。いの中川義規さん(73)・富美子さん(75)夫妻にお話をうかがいました。中川さんのお宅には、昔の農機具や日用品がたくさんありました。まずは、雨の日の農作業で使ったという木の皮で作った雨合羽です。今の薄くて軽いレインコートと違って、とても頑丈で重かったです。



昔は不便なことが多かったと思います。長い年月をかけて少しずつ改善されてきたのだと思います。今と比べて、天敵は少し違うのかなと思います。



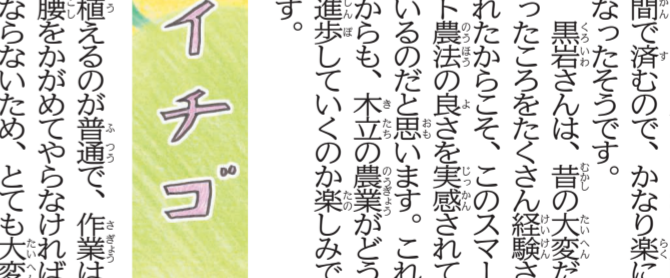
黒岩明さん ようになつたそうです。ホースの時は作業に約2時間かかっていたのが、ドローンだと約15分で終わるようになったそうです。農業の量はホースの時は500畝でしたが、ドローンでは12



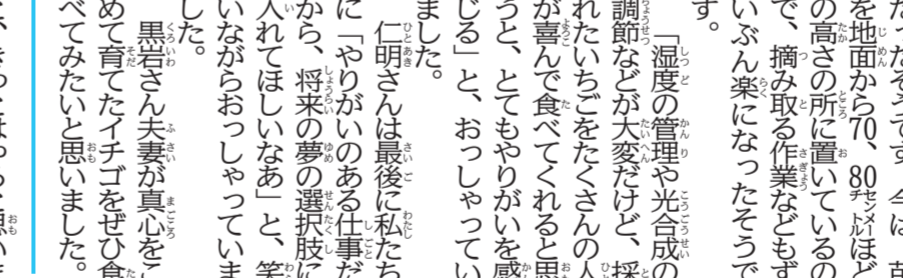
中川義規さん なと思います。もう一つは草を切るのに使っている「はづう」は、昔は草を切るのに使っていた。水は上部から出て各株に送られ、いらなくなつた水は下に落ちるようになっていきました。



木立は、市街地の近くにありながら、自然に恵まれた地域です。この特徴を生かして、木立に『すく』に行けるキャンプ場ができたらいなと思います。そこに「アシレック広場」や「パンジージャンプコート」もあると、さらに楽しさが倍増すると思います。



黒岩さん イチゴの苗は足元の地面に「仁明さんは最後に私たちに『やりがいのある仕事だから、将来の夢の選択肢に入れてほしい』と、笑いながらおっしゃっていました。



私たちが作りました。と、きつとほやると思っています。近くの山には展望台をつくって、満天の星をながめてもらうのもいいでしょう。そうすれば、今よりも木立に多くの人を訪れてくれるのではないかと思います。

新聞ができるまで

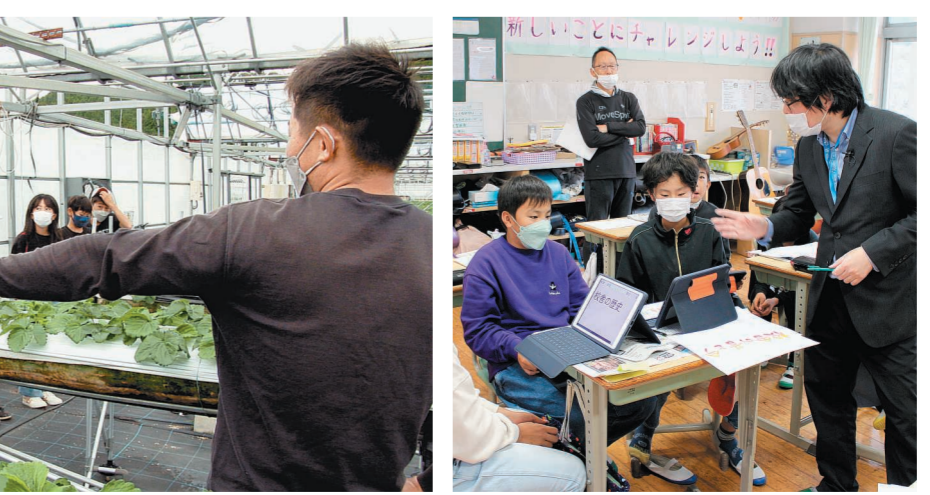
佐伯市木立地区は市内で最大の早期米産地。広大な田んぼに囲まれた木立小の6年生9人は、農業が盛んな古里の「今と昔」をテーマに取材に挑戦した。地域のさまざまな人を訪ね、時代とともに変わるものと変わらないものを調査した。大分合同新聞社南部総局の小松和茂記者(39)が記事の書き方や写真の撮り方をアドバイス。児童は「木立地区の良さが伝わる楽しい新聞を作りたい!」と学校を飛び出した。スマート農業に取り組む黒岩仁明さん(33)の農場を訪問し、最新技術を使った米作りについて質問。ドローンで農業を散布して作業時間を短縮した話に感心した。妻の遥さん(33)からも、栽培するイチゴの水や肥料が機械で自動的に送られていると教わり、熱心にメモを取った。学校の近くに住む中川義規さん(73)、富美子さん(75)夫妻からは、

佐伯市木立小



◎小松記者から取材の仕方などを教わる児童ら(2022年5月10日) ◎イチゴ栽培について取材した(10月12日) ◎伊東記者と見出しなどを考えた(11月1日)

古里の魅力を再確認



地域の魅力を再確認した児童は、大分合同新聞社ニュース編集部の伊東勇一記者(39)から見出しやレイアウトの付け方を学習。立派な新聞を完成させた。



新聞づくりの様子をご覧ください

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita.press.co.jp